

校訓：高く 明るく たくましく

Vol. 8

学校だより

平成30年11月5日

狭山市立入間野中学校

学校教育目標：志高く 心豊かに 自らを鍛える生徒 校長 尾澤 栄一

学校の文化を大切にしよう

遠方に見える富士山もすっかりと雪化粧をし、日を追うごとに晩秋の趣を感じる日を迎えました。今年も隣接した入間基地での航空祭も賑わいを見せ、澄み切った秋空に飛び交うブルーインパルスの勇姿に魅了された方も多いいことでしょう。学校もスポーツの秋から芸術の秋へと転換し、過日行われた校内音楽会ではそれぞれのクラスが自分たちの想いを歌にのせて音楽のもつ力を感じた一日でした。ご来場していただいた多くの保護者や地域の皆様には、感謝を申し上げます。2学期も後半に入り、これからは、じっくりと自己を見つめ個々の成長を高める時期です。今月は、三者面談、感謝の集い、生命の尊重(赤ちゃん体験)職場体験等 自分の成長を顧みることとともに関わった方への感謝と社会へ目を向ける時です。是非、子供も大人も多くの方とふれあい、新たな気づきを実感していきたいです。

さて、学校には文化があります。生徒達と面談し、本校のよさは何ですかと問うと「先輩と後輩との仲がいい」「先生と生徒との距離感がいい」「いじめゼロ宣言がある」「緑が多い」「歌声がきれい」「部活が強い」等々の感想を聞きます。これらはすべて本校の歴史の中で培っていた文化です。その中でさらに精査され残っていくものが伝統となっていくのだと思います。そして体育祭、音楽会を終えて感じる中で、形は変わっても入間野中らしさが、伝承されていることに31年の歴史を感じます。



音楽会 3学年合唱

先月の台風の被害で校庭の大きなケヤキの大木が倒れました。改めて自然の力の恐ろしさと凄さを感じました。校庭のケヤキの木は、開校当時に植樹され以来、本校の歴史を守ってきました。一方校舎内に目を向けると一部老朽化が目立ってきましたが、生徒や先生方の日頃の美化活動のお陰できれいな学校が保たれています。また生徒達の美術作品や行事等の写真、きれいに整備された図書室等、至る所に学校の文化が大切にされていることは明るいい雰囲気づくりの校風へと繋がっていくのだと思います。



また過日、旧入間中の跡地で行われた入曾秋祭りや今月行われる、いるま路祭等、美術部の生徒がポスターを作成し、丁寧に描かれた美しい絵は、地域の方からお褒めのお言葉を頂きました。このように学校の文化は、校内に留まることなく地域にも発信してこそ、学校が地域の心の拠り所として根付いていくことなのだと思います。時代変わってもよいものは残ります。その残ったもののひとつひとつを大切にしていきたいです。

全国学力学習状況調査・新体力テストの結果報告

先月の県学テの報告に続き、今月は4月17日に実施された全国学力学習状況調査の報告をします。調査は、国語・数学に加えて、新たに理科が加わりました。県学テの結果と共に日頃の授業改善に役立てて学力の向上に取り組んでいきます。

※A問題は、主として「知識」に関する問題 B問題は主として「活用」に関する問題
理科は、A「知識」 B「活用」を一体的な問題

全国学力学習状況調査の分析のまとめ			
	結果よりわかること	課題	今後の取り組み
国語	A問題の方が下回っている。 B問題の方がよかった。 考えて自分の言葉で記述することには苦手意識はない。	A問題が下回っているのは、問題数が多いこともできなかった要因の一つだと考えられる。	選択問題などで答えを出すスピードを上げるための演習を行っていく。
	(質問紙) 課題解決に向けて考えたり自分の考えを発表したりすることは平均より多かった。	(質問紙) 話し合う活動について、平均より少なかった。	(質問紙) 生徒の間で話し合う活動を通じて生徒自身の考えを深めたり広げたりする。
数学	知識を問う問題では、全国平均を上回ったが応用問題では下回った。	文字を用いて証明をする問題の正答率が低い。具体的な数値を扱う問題ならば解くことができるが文字になるとわからなくなる生徒が多い。	文字に数字をあてはめ具体化しながら考えていく力を伸ばすような授業を展開していく。
	(質問紙) 数学の勉強は好きですかという項目に始まり一つを除いたすべての項目で県平均及び全国平均を上回った。	(質問紙) もっと簡単に解く方法がないか考えますか、という項目では県平均をわずかに下回った。	(質問紙) 教師主導型の授業ではなく、解法の比較・検討により生徒が主体的に考える授業を展開していく。
理科	活用に関する問題に対しては高い知識に関する問題においては正答率が低い部分があった。	知識を定着させるには既存の知識の上に生活体験と結びつけることが必要である。	理科で学んだことを日常生活に関連付けられるよう具体的な事象を取り上げた説明を行い、暗記に頼らない学習を進めていきたい。
	(質問紙) 理科に対する意識として重要性や必要性は感じているものの、やや苦手意識を持っている生徒が多い。	(質問紙) 身の回りで起きている出来事には様々な科学的な原理や現象が使われていたりすることに気づくことが大切である。	(質問紙) 授業では生徒の気づきを大切にし探究的な活動を取り入れていく。

昨年度の学校だよりでも掲載しましたが、かつて某進学塾の広告に「挨拶は学力」というコピーがありました。家庭学習をおろそかにしない。早寝早起きや朝ごはんをしっかりと食べるなど生活習慣がしっかりとしている家庭で育っている生徒は学力が高いだけでなく挨拶などの習慣もきちんとしています。またある調査では、家庭・地域・学校と子供とのつながりや豊かな人間関係が存続している地域、伝統的な人間関係が存続している地域では小中学生の学力は高いという報告がされています。さらに学力が高い秋田県の場合、視察に来た大阪のある先生が「掃除をさぼる子には、どのような指導をしているのですか」と質問したら、間髪入れずに教頭先生が「えっ、大阪には掃除をさぼる子がいるんですか」と返したそうです。当たり前前のことを当たり前にする凡事徹底こそ学力向上の王道です。本校でも望ましい人間関係の醸成や挨拶、基本的な生活習慣の励行等、当たり前前のことが出来、社会に通じる生徒を育てることを今後も取り組んでいきます。

1学期に実施した新体力テスト分析の結果を報告します。

新体力テストは全学年対象に、50m走 立ち幅とび ハンドボール投げ 持久走 反復横とび 握力 上体起こし 長座体前屈 を測定します。

新体力テストの分析のまとめ			
	1学年	2学年	3学年
結果よりわかること	・男女とも上体起こしや立ち幅跳び、長座体前屈が平均を上回っている。 男子 A評価5%女子は41%	・男子の体力が全体的に低い。男子 A評価約9% ・女子は全体的に高く、ハンドボール投げのみ平均を下回っている。筋力、走力ともに高いことがわかる。また約半数が A評価である。	・男女ともに体力が高く、ハンドボール以外はすべて県平均を上回っている。・男子 A評価約36% 女子は約39%
課題	・全体的に走力、敏捷性を高めること。 ・走ることへの苦手意識や組み方を前向きにしていくこと。	・男子は全体的に平均を下回っているが、C、Dの評価の生徒を高めていく。	・今後は受験期になり体力が低下してくる。授業の中で運動量を確保し体力向上を図る。また体力低下による怪我の予防をする。
対応	・通年をとおして5分間走の実施をして体力向上を図る。 ・球技系の授業での補強運動を通して敏捷性を向上させる。 ・昼休みの外遊びの励行	・授業での声かけ。やる気や頑張れるような支援でC、D生徒の意欲を高める。 ・女子へは目標設定を高くし、さらに力を向上させていく。	・5分間走の継続。 ・準備運動や整理体操を重点をおいて行う。
質問紙	・朝食摂取率 (毎日食べる) 男子93% 女子93% ・睡眠時間 (6～8時間) 男子50% 女子55% ・テレビ視聴 (ゲーム含む) 1～3時間まで 男子75%女子67% ・体力に自信はあるか (ある)男子24%女子10%	・朝食摂取率 (毎日食べる) 男子84% 女子90% ・睡眠時間 (6～8時間) 男子66% 女子76% ・テレビ視聴 (ゲーム含む) 1～3時間まで 男子79%女子72% ・体力に自信はあるか (ある)男子8%女子10%	・朝食摂取率 (毎日食べる) 男子88% 女子85% ・睡眠時間 (6～8時間) 男子49% 女子64% ・テレビ視聴 (ゲーム含む) 1～3時間まで 男子72%女子70% ・体力に自信はあるか (ある)男子9%女子2%

社会体験事業 (3 d a y s チャレンジ)

11月20日(火)から22日(木)の3日間、第2学年では、地域の事業所で職場体験を行います。この行事は、将来の夢や希望を大切にするキャリア教育としてのねらいと勤労の意義を理解し、働くことへの関心を深める目的で実施します。数年前より若者の離職やニート等の問題が社会問題ともなっています。AI時代の到来で今ある職業の存続等も問題視されていますが、いずれにしろ働く意義については、若い世代から体験していくことが必要なことだと思います。今年度は、市内の39の事業所で昨年よりも1日増加して実施します。

本校生徒をお見かけしましたら是非、お声をかけていただき励ましていただきたいと思います。

